

## 用語解説等

用語名	解 説	掲載 頁
S A B 評 価結果	<p>第2ステージで示した「4つの観点」に係る評価基準により、各教育事務所が学校訪問を通して評価したもの。</p> <p>〈全体〉</p> <p>1回目の学校訪問終了時点では、小学校の96%、中学校の92%が全観点A評価以上、小学校の11%、中学校の7%が全観点S評価（年度末時点では、小学校のほぼ100%、中学校の100%が全観点A評価以上、小学校の55%、中学校の42%が全観点S評価）となり、校種で比べると中学校により課題が見られた。</p> <p>〈観点別〉</p> <p>1回目の学校訪問終了時点での評価を観点別に見ると、観点Ⅰ、Ⅲにおいて、いずれも、小学校でB評価にとどまる割合2～3%程度、A評価は63%程度、S評価は33～35%程度と、他の観点と比べて相対的に課題が残っている。</p>	P. 4 P. 7
カリキュ ラム・マネ ジメント	<p>新しい学習指導要領解説（総則編）（小・中・高・特支（小・中））では、カリキュラム・マネジメントについて、次の3つの側面（特支は4つの側面）で捉えている。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>① 教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと。</p> <p>② 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと。</p> <p>③ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと。</p> <p>（特支：④個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくこと。）</p> </div> <p>また、学校評価との関係については、中教審答申「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」（平成31年1月25日）を踏まえ、以下のように捉えている。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>各学校が行う学校評価については、教育課程の編成、実施、改善が教育活動や学校運営の中核となることを踏まえ、カリキュラム・マネジメントと関連付けながら実施するよう留意するものとする。<span style="float: right;">〔新しい学習指導要領より〕</span></p> </div> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>学校のグランドデザインや学校経営計画に記される学校教育目標等の策定は、教育課程編成の一環でもあり、「カリキュラム・マネジメント」の中心となるものである。学校評価において目指すべき目標を、子供たちにどのような資質・能力を育みたいかを踏まえて設定し、教育課程を通じてその実現を図っていくとすれば、学校評価の営みは「カリキュラム・マネジメント」そのものであると見ることもできる。各学校が育成を目指す資質・能力を学校教育目標として具体化し、その実現に向けた教育課程と学校運営を関連付けながら改善・充実させていくことが求められる。<span style="float: right;">〔中教審答申より〕</span></p> </div>	P. 2 P. 7 P. 11 P. 12 P. 14 P. 15 P. 16 P. 18 P. 19 P. 20 P. 21 P. 24 P. 25 P. 30 P. 33 P. 37
これまで 学校・教師 が担って きた14の 業務の在 り方に関 する考え 方	<p>中教審答申「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について」（平成31年1月25日）では、次の5つの施策の一体的な推進が必要としている。</p> <div style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p>① 勤務時間管理の徹底と勤務時間・健康管理を意識した働き方の促進</p> <p>② 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化</p> <p>③ 学校の組織運営体制の在り方</p> <p>④ 教師の勤務の在り方を踏まえた勤務時間制度の改革</p> <p>⑤ 学校における働き方改革の実現に向けた環境整備</p> </div>	P. 17 P. 18 P. 34



## 用語解説等

用語名	解 説	掲載 頁										
主体的・対話的で深い学びの実現	<p>新しい学習指導要領解説（総則編）（小・中・高・特支（小・中））では、主体的・対話的で深い学びの実現とは、次の3つの視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けるようにすることとしている。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>① 学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次に繋げる「主体的な学び」が実現できているか。</p> <p>② 子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。</p> <p>③ 習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見出して解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「深い学び」が実現できているか。</p> </div>	P. 19 P. 20 P. 21 P. 23										
スタート カリキュラム	<p>遊びを中心とした幼稚園、保育所、認定こども園の生活から、教科学習や時間割による小学校の学習活動に円滑に接続できるよう工夫された指導計画のこと。</p>	P. 17										
地域とともにある学校	<p>中教審答申「新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働の在り方と今後の推進方策について」（平成27年12月21日）では、地域でどのような子どもたちを育てるのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを地域住民等と共有し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある学校」へと転換していく必要があり、このためには、これからの学校運営に欠かせない機能として、次の3つを再認識していく必要があるとしている。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>① 関係者が皆当事者意識を持ち、子供たちがどのような課題を抱えているのかという実態を共有するとともに、地域でどのような子供たちを育てていくのか、何を実現していくのかという目標・ビジョンを共有するために「熟議（熟慮と議論）」を重ねること。</p> <p>② 学校と地域の信頼関係の基礎を構築した上で、学校運営に地域の人々が「参画」し、共有した目標に向かって共に「協働」して活動していくこと。</p> <p>③ その中核となる学校は、校長のリーダーシップの下、教職員全体がチームとして力を発揮できるよう、組織としての「マネジメント」力を強化すること。</p> </div> <p>また、「地域とともにある学校」の推進方策として、全公立学校へのCSの導入推進や地域学校協働活動（従来の「協育」ネットワーク活動）の推進等に取り組むこととしている。</p>	P. 6 P. 7 P. 11 P. 16 P. 18										
幼児期の 終わりま でに育っ てほしい 姿	<p>幼稚園教育要領解説では、ねらい及び内容に基づく活動全体を通して資質・能力が育まれている幼児の幼稚園終了時の具体的な姿が、次の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」であり、教員が指導を行う際に考慮するものであるとしている。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">① 健康な心と体</td> <td style="width: 50%;">⑥ 思考力の芽生え</td> </tr> <tr> <td>② 自立心</td> <td>⑦ 自然との関わり・生命尊重</td> </tr> <tr> <td>③ 協同性</td> <td>⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚</td> </tr> <tr> <td>④ 道徳性・規範意識の芽生え</td> <td>⑨ 言葉による伝え合い</td> </tr> <tr> <td>⑤ 社会生活との関わり</td> <td>⑩ 豊かな感性と表現</td> </tr> </table> </div>	① 健康な心と体	⑥ 思考力の芽生え	② 自立心	⑦ 自然との関わり・生命尊重	③ 協同性	⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚	④ 道徳性・規範意識の芽生え	⑨ 言葉による伝え合い	⑤ 社会生活との関わり	⑩ 豊かな感性と表現	P. 17
① 健康な心と体	⑥ 思考力の芽生え											
② 自立心	⑦ 自然との関わり・生命尊重											
③ 協同性	⑧ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚											
④ 道徳性・規範意識の芽生え	⑨ 言葉による伝え合い											
⑤ 社会生活との関わり	⑩ 豊かな感性と表現											